

## 目次

まえがき——3

### 第1章 苦渋のスタート、中性子研究

#### 1 古き良き理研——14

大正デモクラシー——14

無謀な転身——17

中性子研究の世界——20

理研での日々——23

#### 2 戦時下苦悩の中性子研究——28

灰泥ダイナミックス——28

我が道を行く——30

#### 3 焼夷弾の下で——36

狙われたか？ 仁科研	36
天野清の死	40

## 第2章

### 鎮魂の丘

1 ピカドンの広島	44
東京で原爆放射能を測る	44
ローリッツェンと赤紙を持って	47
広島の調査	49
医師らの証言	56
2 移動演劇隊犠牲者の放射能	62
死の脱出行	62
仲みどりとの出会い	65
3 一陣の涼風	71
モリソン教授の来訪	71
4 再び広島、そして長崎へ	75
二度目の広島	75
爆心地点と高度の測定ほか	79

## 第3章

### 科学と政治の相剋

1 コーネル大学で	108
初めての渡米	108
コーネル便り	113
2 オツペンハイマー事件	119
状況	119
聴問会の結論	122
不公正な原子力委員会	124
歴史の裁き	125
3 アメリカで聞く第五福竜丸の被爆	129

## 第4章 加速器と原子炉

### 1 加速器の世界——134

加速器というものは——134

加速器はどうして働くか？——137

粒子が暴れないためには——140

### 2 東北大学大型電子リニアック計画——142

私の置かれた状況——142

妨害と激励——144

いよいよ大型電子リニアックに着手——146

予算要求——148

他大学との激突——150

### 3 加速器は原子炉以上のものになれるか——155

私の小さな試み——155

アルゴンヌ国立研究所で——158

ジャックとの協力は始まった——161

冷遇されたか、我々の研究——170

## 第5章 核兵器なき世界を求めて

### 1 ヒロシマ・ナガサキ、そして戦後——188

原点への反省——188

再来の米ソ緊張——191

駆け出した私——194

### 2 戦略防衛構想(SDI)との戦い——200

厄介物SDIを言い張るレーガン——200

アルゴンヌもSDIに悩まされる——205

アルゴンヌとロス・アラモスの微妙な関係——209

N O S D I N O T E S T——212

上院議員のスタッフらに要請——215

アルゴンヌでのIPNS(強力パルス中性子源設備)の建設——171

筑波高エネルギー物理学研究所での建設——176

英国ラザフォード・アプルトン研究所では——177

本当に有用なものか——180

CP-1三五周年記念パーティー——184

3 レイキャビク決裂の意味するもの——220

氷島の歴史的対決——220

軍拡の流れは変わった——222

## 第6章 核と人間の未来

### 1 人間と科学技術——226

原発の生い立ちと問題点——226

未来のエネルギー源——233

### 2 核兵器を葬る人間の知恵——235

核兵器の急発達——235

A B M制限条約の重要性——239

核兵器は完全に廃絶できるか——240

はかどらないレーガン以後の核削減——243

今こそ科学者は最大の努力を——247

東欧諸国民の知恵——252

あとがき——257